

時間最短化、 成果最大化の法則

木下 勝寿 著

単行本：326 ページ

出版：ダイヤモンド社

価格：1,760 円 (税込)

はじめに

頑張っているのに成果が出ない。そういう経験は誰もがしたことがあるでしょう。せっかくのスキルを有効活用するための「思考アルゴリズム」とは何か、成果が出る人の思考パターンを見てみましょう。

成功にまつわる 3 種類の間人

筆者は大学卒業後にリクルート社に入社し求人雑誌の広告営業の仕事に就いていました。そしてそこでの顧客との関わりから人間は 3 種類に分かれると気付いたそうです。

- ・ 成功する人
- ・ 成功しそうだけど、しない人
- ・ 成功しない人

顧客である経営者との商談中、筆者はさまざまな提案やアイデアで話し盛り上がったといいます。そして、その後何人もの経営者は「あのアイデアのこれは良かったけど、これはダメだった」とフィードバックしてくれた、つまり仕事で成果を出す人は「ピッと思いついたらパッとやる」という行動量を増加させるための思考をしているということです。

150 倍の成果を出せるロジック

筆者は「ピッと思いついたらパッとやる」=「ピッパの法則」と名付け、このような考え方を「思考アルゴリズム」と呼んでいます。そして、スキルに関していえば、どれだけ磨いても新人とベテランでは 3 倍程度の違いしか生まれません。しかし思考アルゴリズムによる差は 50 倍と筆者は解説しており、その掛け算によって成果に 150 倍の違いがあると述べています。

「思考アルゴリズム」は「考え方」なので、すぐに変えることができるし、1 回インストールすれば、すぐ、何度でも使える。

ボールペンより鉛筆を探す

戦略とはいかに「不確実な部分を略せるか」だと筆者はいます。その上で宇宙開発にまつわる話を例に挙げています。

無重力の状態ではボールペンのインクがペン先に届かずに書けないという問題がありました。そこで NASA の優秀な科学者は 10 年という時間と膨大な費用によって、ありとあらゆる場所で書けるボールペンを開発しましたが、一方でロシアは鉛筆を使ったとのこと。

「有能な人」ではなく「成果が出ている人」から学ぼう。

<中略>難しいことに取り組んでいること自体に悦に入らず、鉛筆を探そう

成功者の思考回路をコピーする

本書にある思考アルゴリズムをインストールし、行動に結び付けられた後にすべき取り組みは成功者の思考回路をコピーすることだと筆者は解説しています。

本人の映像や文章がインターネット上数多く公開されている時代なので、収集は比較的容易です。そして、その情報の中で特に重要なことを筆者は挙げています。

差はどこから生まれてくるのか？ 突き詰めて考えると「この世の中で『誰に』『何を』伝えているか」ということ以外の違いが見つからなかった。

成果を上げるためには「誰に」と「何を」を考え、場合によっては変えることが最も重要だということです。

多くの事例と体験談によって、一つ一つの思考アルゴリズムが実践しやすく解説されています。仕事に行き詰まっている方にオススメしたい一冊です。